

魚津ロータリークラブ会報誌

2015-2016年度 R I 会長 K.R. ラビンドラン

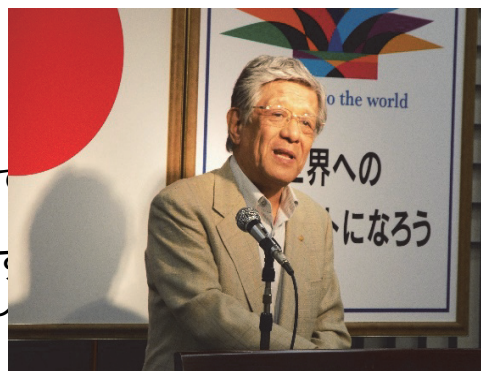
2015-2016年度 魚津RC会長 羽田 睦朗



第2977回例会 新年度決起活動夜間例会 (於、ホテル・サンルート)

- 1、点鐘・握手
- 2、ロータリーソング「それこそ ロータリー」
- 3、誕生祝
- 4、会長挨拶(羽田 睦朗会長)

台風11号は太平洋側では豪雨で大変でしたが、当地で温帯低気圧になり、被害もなく、大変よかったです。
”魚津クラブも早く入会式をしたい”もので今日は、大いに語らい、親睦を深め、「ロータリーを楽しみましょう」。



- 5、出席報告(仙丸和幸委員長)

本日の出席 20名。出席率 66. 66%。メイクアップは野沢良成さんです。
2776回の出席率は86. 66%で変わらずです。

- 6、ニコボックスはなしです。
- 7、委員会報告もなしです。
- 8、閉会点鐘
- 9、親睦会

根岸 朗さんの乾杯で盛大に開始され、会員同士、おいしい料理を頂き、大いに語らい”一期一会”時空を和やかに楽しみました。特に、誰もが新しい会員の拡大を熱望していました。





中締めの方歳は、SAA愛宕 彰さんが指名されました。愛宕さんは10名の新入会員拡大を”有言実行”しますという力強い決意されました。全員で協同して目的達成しましょう。

あとがき

- ・北陸新幹線が今年3月に開通し、全国から多くの観光客が訪れていると報じられています。なかでも金沢や能登方面のにぎやかさが大きな話題になっていますが、地元魚津が気掛かりになります。
- ・近くのあるクラブの会員が減少し、存亡の危機に立たされいると聞きました。他人ごとではない気がすると思えます。
- ・その時、古の人々は、どうしたのでしょうか。
- ・名言に「温故知新」とあります。古き(歴史)を知り、新しきを知る(情報)ということです。
- ・おおよそ2500年前のインドのことですが、釈迦如来がマガタ国からたぶん自分の生まれ、育った故郷へ最後の旅を決意しました。その出発前、マガタ国王が隣接する、裕福なヴァッジ族を征服しようと思い、釈迦如来(お釈迦様は35歳で悟りを開いた後、釈迦如来といいました)に意見を聞くため重臣を派遣しました。
- ・その時、釈迦如来が説いた言葉(真理)が大変有名な「7不衰退法」です。それは以下のとおりです。
 - (1)しばしば会議を開き、会議には多くの人々が参集しているか。
 - (2)協同して集合し、協同して行動し、協同してヴァッジ族として為すべきことを為しているか。
 - (3)未だ定められていないことを定めず、すでに定められたことを破らず、往昔に定められた

ヴァッジ人の旧来の法に従って行動しているか。



(4)ヴァッジ族の古老を敬い、尊び、崇め、もてなし、そうして彼らの言を聴いているか。

(5)ヴァッジ人は良家の婦女・童女をば暴力で連れ出し、とらえ、留めることをしないか。

(6)ヴァッジ人が(都市の)内外のヴァッジ霊域を敬い、尊び、支持し以前に与えられ、以前に為されたる、法に適った彼らの供物を廃することがないか。

(7)ヴァッジ人の真人(尊敬さるべき修行者)たちに、正当な保護と防禦と支持とを与えてよく備え、未だ来ない真人たちが、この領土のうちに安らかに住むことを願っているか。

とアーナンダに質問し、確認し、それを使者の大臣に聞かせた。マガタ国のヴァッサカーラ大臣が帰って、国王にその旨を報告しました。マガタ国のアジャータサットウ王は「法」を尊び、ヴァッジ国の征服を断念しました。

現在、ヴァッジ族の国(パトナー周辺)はビハール州の首都として、ガンジス大河流域の交通・商業・政治・文化の中心都市として、大いに繁栄しています。

さて、魚津RCの盛衰について、釈迦如来に意見を求めた時、如来はどのように説法されるのでしょうか。聴いてみたいものです。

- ・皆さんからのご意見やご指導の言葉、その他、楽しい体験など求めています。
- ・読んで楽しい、見てうれしい”広報誌”にしたいものです。
- ・寄稿を待っています。(広報委員会より)